

「教会はキリストのからだ」

エフェソの信徒への手紙 第1章 20節～23節

説教 岡村 恒 牧師

「教会はキリストの体」(23節)です。世界中のキリスト教会が信仰を告白する時の言葉です。教会には、キリストが一杯に満ちている、と私たちの教会では信じています。

普通、〈教会〉と聞くと、建物や組織といったものを思い浮かべるかも知れません。しかし、聖書が語る「教会(エクレシア、22節)」という言葉は、建物や人間の集まりを指す言葉ではなく、キリストの命があふれる特別な存在、「神の民」のことです。しかも、一つの「キリストの体」と呼ばれるものです。

教会は、全世界をお造りになり、私たち一人一人の髪の毛一本まで知り尽くしておられる全能の神の力があふれている「キリストの体」です。そこに、キリストの力、慈しみと愛とが満ちています。「教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。」(23節)すべてのものを満たすお方が一杯に満ち満ちているのが教会です。

「キリストの充満(プレローマ、23節)」という言葉で、聖書は、私たちひとりひとりが満たされると語ります。私たちの人生も、この世界も充満を求めています。様々なものを探し求め、必死で努力しても、どうしても手に入らないものがあり、欠乏と空虚を抱えています。人は「生まれながら神の怒りを受けるべき者」(エフェソの信徒への手紙 2章3節)と聖書は語ります。神に敵対し、神によって満足を与えられることを願うことさえできない私たちの姿を、聖書は〈罪人〉という言葉で言い表すのです。

エフェソの信徒への手紙1章は、宇宙的なスケールで、このような罪人である私たちを救い出す神の力を描き出しています。天地創造の前から私たちを選び、終わりの日に主イエスの名前をすべてのものの上に置いて私たちをみ名のもとに迎え入れて下さるのだと語り、教会に働く神の力を描きます。私たちの日常の空虚を、魂の奥底にある大きな欠けを、神が、宇宙的なスケールで満たして下さいます。

今朝の御言葉には、「神の力」という言葉が、登場します。神の目に見えない「力」が、具体的な出来事を通して見えるようになると語られています。私たちは、木の葉が動くのを見て、風が吹いていることを知ります。私たちを救う神の力は、ある一点において目に見えるように

なりました。主イエスが十字架で死んだ後、神がこのお方を死から引き上げて復活させ、今も生きておられる主イエスは再び来て下さいます。このお方において、神の絶大な力が目に見えるようになりました。神に裁かれ、滅び去るはずの私たちが、ただ主イエスの十字架の死を代価として赦され、確かに、神の子と呼ばれて生きようになりました。

主イエスは、父なる神と等しいお方です。天地が造られる前から父なる神と共におられ、無から有を生み出すことができるお方です。全知全能の神には、何も欠けたものはありません。コップに水を注ぎ続けるとやがて一杯になってあふれ出ます。私たちを満たす神の力は、私たちの内から、他の余分なものを全部追い出して、恵みがあふれ出るようにして下さいます。

からだ全体は一つの命を生きるものです。キリストを信じて洗礼を受けた者は、このひとりのお方を信じ、一つの命を共に生きようように主に結び合わされて生きています。接ぎ木された枝のように、幹と一体となって生きるのです。

聖餐の食卓は、私たちがイエス・キリストの一つの命を生きていることを表しています。時間と場所を越えた大きな一つの教会に、私たちの大阪教会も結びつけられて、キリストの命を注ぎ入れられています。そこに結び合わされている私たちの人生のどの瞬間を取っても、キリストと無関係な瞬間などありません。だから、誰でも主イエスを信じる者は滅びることがありません。まことの命を持っているからです。

主イエスは言われました。「わたしが与える水を飲むものは、いつまでもかわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」(ヨハネによる福音書 4章14節)もう水を汲みに行っても空虚を満たそうとしなくても、私たちの内側から本当の命があふれ出て、他の人を潤すようになるのです。

恵みとまことに満ちている主イエスが、教会のかしらとしてそのからだに結びつき、満たしておられます。私たち自身の、あるいは自分の人生の空虚を、主イエスはよく知っておられ、満たして、主の命を溢れさせて下さいます。

(記 岡村 恒)